

研究課題	メソ・局地アンサンブルを利用した顕著現象に対する最適予測シナリオの構築
研究期間	令和6年度～令和7年度（2年計画第1年度）
実施官署	札幌管区气象台、新千歳航空測候所、仙台管区气象台、大阪管区气象台、福岡管区气象台、下関地方气象台、長崎地方气象台、鹿児島地方气象台
担当者	（札幌管区气象台）倉橋永、朝比奈聡司、齋藤直幸、宇田川怜、北川澄人、廣瀬聡、関原孝俊、小泉創大 （新千歳航空測候所）野村達郎 （仙台管区气象台）山口純平、小笠原敦 （大阪管区气象台）飯田早苗、古矢真一 （福岡管区气象台）小川浩司、石田瑛美、鈴木雄斗、佐藤令於奈 （下関地方气象台）大谷修一、喜多川太一、喜多村萌以 （長崎地方气象台）武次良孝 （鹿児島地方气象台）小林英樹、東島成良、簗添良輔
担当研究官	[台風・災害気象研究部] ○小野耕介
目的	気象研究所で開発したメソアンサンブル（MEPS）及び局地アンサンブル（LEPS）から複数の決定論的予測シナリオを作成する技術を、地方官署が注目する顕著現象に適用することで、現業的な観点から精度の良いシナリオの選択可能性を調査し、予測精度の改善を目指す。また MEPS・LEPS を利用した事例解析の議論を通じて、予報担当者のアンサンブル予報に対する理解を深めることを目指す。
研究の概要	1. MEPS・LEPS シナリオ作成・選択技術の紹介。地方官署より注目する顕著事例の提案。 2. 気象研究所にて、提案事例に対して MEPS・LEPS 複数シナリオデータを作成・提供。 3. 地方官署にて事例の解析を行う。検証スコア等の計算は気象研究所が支援。 4. 解析結果について Web 会議を利用して議論することで、MEPS・LEPS シナリオの現業的な有用性を検討する。 5. 府県研究会等における原稿作成及び発表を通じて成果をまとめる。
令和6年度実施計画	1. Web 会議により、気象研側から MEPS・LEPS の特性及び複数シナリオ選択技術の紹介を行うとともに、地方官署より注目したい事例の紹介を行う。 2. 注目する事例について、気象研側で複数気象シナリオを作成し、地方官署側へ提供する。 3. 地方官署により複数シナリオデータを利用した事例解析。気象研側で検証スコア等の計算を実施。 4. Web 会議により複数シナリオの有用性を検討するとともに、複数シナリオ作成方法の高度化についての議論を行う。 5. 地方研究会等により、成果の報告・まとめを行う。